

平成 24 年度

新資料館整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

ひろめやしきあと
弘人屋敷跡

記者発表及び現地説明会資料



調査区西壁に現れた中世の水路断面

日時 記者発表 平成 24 年 10 月 11 日 (木) 午前 11 時 00 分 ~
現地説明会 平成 24 年 10 月 13 日 (土) 午後 1 時 30 分 ~ 3 時 00 分
場所 弘人屋敷跡発掘調査現場 (高知市帯屋町 2 丁目)

(公財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

平成 23・24 年度実施の弘人屋敷跡発掘調査は、高知県が計画している新資料館整備事業の建設予定地に所在する弘人屋敷跡において、工事で影響を受ける部分について事前に発掘調査を実施し、遺跡の内容を記録保存して地域の歴史の復原に役立てようとするものです。

(2) 調査対象地

高知市帯屋町 2 丁目・追手筋 2 丁目

(3) 調査期間

平成 23 年度：平成 23 年 11 月下旬～平成 24 年 3 月上旬

平成 24 年度：平成 24 年 5 月下旬～平成 24 年 12 月末(予定)

(4) 調査面積

総調査面積：約 4,000㎡(当初予定)

平成 24 年度調査面積：1,726㎡

(5) 調査体制

調査委託者 高知県(担当課：文化・国際課)

調査受託者 (公財)高知県文化財団(実施機関：埋蔵文化財センター)

(6) 調査協力

高知県、高知市、新資料館整備事業関係者、地域の方々

2. 遺跡の概要と調査の成果

(1) 遺跡の概要

「弘人屋敷跡」はかつての土佐藩家老・深尾弘人ふかおひろめしげあき蕃頭ちなの屋敷に因んだ名を持つ遺跡で、該当区域を埋蔵文化財包蔵地として周知しています。平成 23 年度の調査では木の枝と粘土で地盤を固めた土木事業の痕跡等が発見され近世家老屋敷の様子が一部明らかになると共に、中世に遡る水路を検出するなどの成果を収めました。平成 24 年度の調査では水路と同時代の溝や土坑など中世の遺構を多数発見しました。一部には古代に遡る遺構・遺物も見つかり、高知城周囲の歴史が従来の考えよりも遥かに古く遡ることが分かってきました。

(2) 検出遺構(平成 24 年度)

SK[土坑] 82 基 SD[溝] 11 条 SX[不詳遺構] 4 基 SE[井戸] 1 基 ピット 418 基

(3) まとめ

弘人屋敷跡は、調査対象範囲内においても区域ごとに異なった様相をみせています。平成 23 年度に調査を実施した南側区域は地形が低く遺構が少ないものの低地を利用する工夫が見られました。今回の調査区中央付近は地形がやや小高く中世の遺構が数多く発見されましたが、後代に削平された影響もあり近世の遺構はあまり残っていませんでした。これから調査を進めていく北側区域は近世の整地層が広がる区域と予想されますが、遺構の残存状況は未知数です。この成果についてはお知らせする機会を改めて持ちたいと思います。



SD01 (北から)



SD02 土層堆積状況 (西から)



SK46 土層堆積状況 (西から)



SE01 井戸側検出状況 (北から)



SX04 (南から)



SX04 遺物出土状況 (北東から)



SD10 遺物出土状況 (南から)



SK71 (南西から)